

北海道教育委員会では、平成 26 年度から文部科学省委託事業「がん教育総合支援事業」の委託を受け、実践研究等を行っています。

本冊子は、令和元年度に取り組んだ各校の実践等をまとめたものです。

各学校におけるがん教育の一助として活用いただければ幸いです。

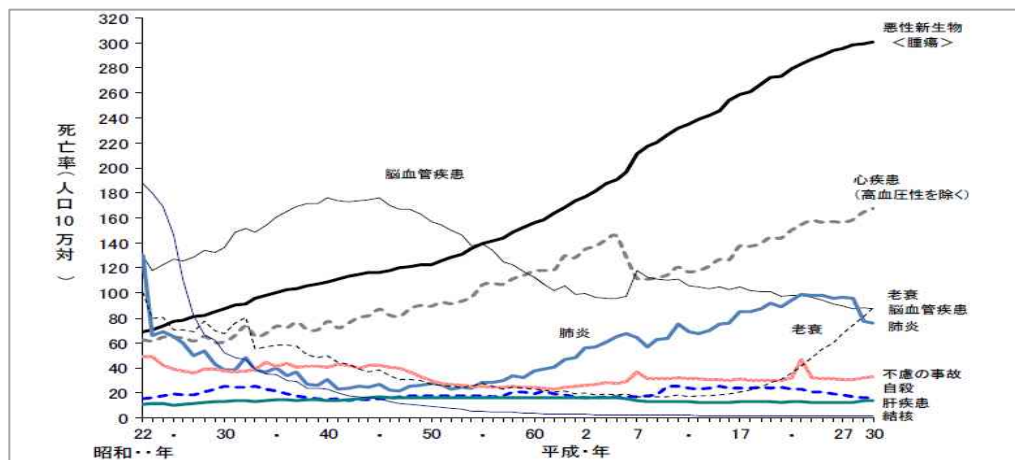
【目 次】

1	がんを取り巻く現状と課題	1
2	学校におけるがん教育の目標や内容等	2
3	がん教育の実践例	3
4	がん教育の実施による生徒の変容	4
5	がん教育推進校における実践の概要	5
	■ 室蘭市立東明中学校	6
	■ 日高町立富川中学校	7
	■ 標茶町立虹別中学校	8
	■ 北海道深川西高等学校	9
	■ 北海道名寄高等学校	10
	■ 北海道豊富高等学校	11
参考資料 1	がん対策に関する国及び北海道の動向	12
参考資料 2	がん教育の実施状況	13

1 がんを取り巻く現状と課題

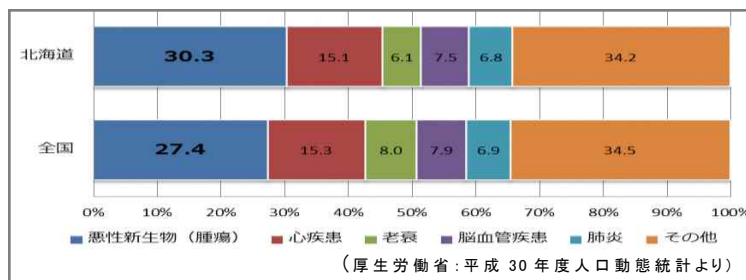
(1) 死因別にみた死亡率の年次推移（全国）

厚生労働省が公表している「平成 30 年（2018）人口動態統計」では、**がん**（悪性新生物）は一貫して**増加**しており、昭和 56 年以降死因順位の第 1 位となっています。



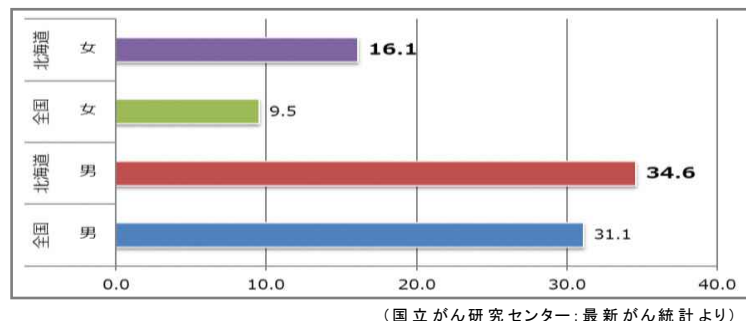
(2) 死因別にみた死亡割合

本道における死因の第 1 位は「がん」であり、平成 30 年（2018 年）には、年間に約 1 万 9 千人、およそ 3 人に 1 人が、「がん」で亡くなっています。



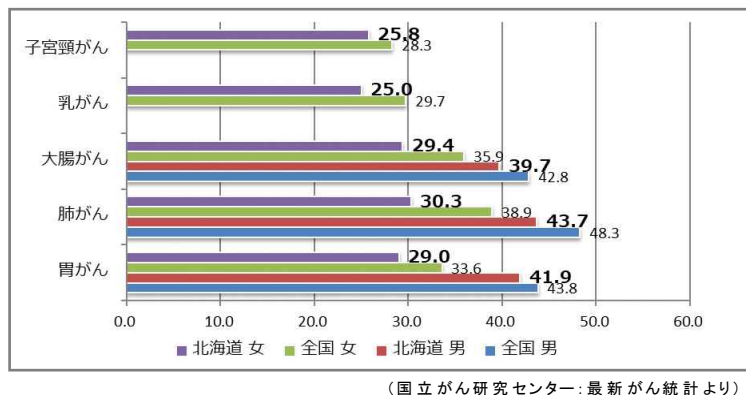
(3) 喫煙率

「がん」の原因には、喫煙（受動喫煙を含む）、食生活、運動等の生活習慣、ウイルスや細菌への感染など様々なものがあります。**本道の喫煙率は、全国と比べて高い水準にあります。**



(4) がん検診受診率（40 歳以上）

「がん」は、検診の実施により早期に発見することができ、適切な治療を行うことで、「がん」による死亡者数を減少させることが可能です。しかし、**本道のがん検診受診率は、全国と比べて低い状況**となっています。



【課題】

- がんは、死因の第 1 位であり、全体の 30.3%（全国 27.4%）を占めている。
- 喫煙率が、男性で 34.6%（全国第 4 位）、女性で 16.1%（全国第 1 位）である。
- がん検診受診率は、胃がん・肺がん・大腸がん・乳がん・子宮がんの各検診において男女とも、全国よりも低い受診率である。

がん教育の定義

がん教育は、健康教育の一環として、**がんについての正しい理解**と、がん患者や家族などの**がんと向き合う人々に対する共感的な理解**を深めることを通して、自他の健康と命の大切さについて学び、**共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図る教育**である。

がん教育の目標

- ① **がんについて正しく理解することができるようにする**
がんが身近な病気であることや、がんの予防、早期発見・検診等について関心を持ち、**正しい知識を身に付け、適切に対処できる実践力を育成**する。また、がんを通じて様々な病気についても理解を深め、健康の保持増進に資する。
- ② **健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする**
がんについて学ぶことや、がんと向き合う人々と触れあうことを通じて、**自他の健康と命の大切さに気付き、自己の在り方や生き方を考え、共に生きる社会づくりをめざす態度を育てる**。

がん教育の具体的な内容

ア	がんとは（がんの要因等）	カ	がんの治療法
イ	がんの種類とその経過	キ	がん治療における緩和ケア
ウ	我が国のがんの状況	ク	がん患者の生活の質
エ	がんの予防	ケ	がん患者への理解と共生
オ	がんの早期発見・がん検診		

【内容の取扱い】

- ・ア～ケの内容を適宜関連付けて、理解できるようにする。また、それぞれの内容を関連付けて、一次予防（生活習慣の改善等）、二次予防（がん検診等）について理解できるようにする。
- ・現在及び将来に直面するがんに関する課題に対して、適切な思考・判断を行い、自らの健康管理や健康的な生活行動の選択ができるようにする。
- ・がん教育の二つの目標を達成するために、がんを通して健康や命のかけがえのなさに気付き、がん患者や家族などのがんと向き合う人々の取組に関心をもつとともに、健康な社会の実現に努めることができるように留意する。

4 がん教育の実施による生徒の変容

がん教育推進校において、事業実施前後に生徒を対象としたアンケート結果から、

- ・「がん」の学習は健康な生活を送るために重要であり役立つと思う
- ・食事や運動を意識し、健康な体づくりに取り組もうと思う
- ・がん検診を受診しようと思う

と回答した生徒の割合が 15%以上増加したことから、がん教育を通して多くの生徒が「がん」についての理解を深め、健康と命の大切さに気付くとともに、自己の生き方を考えるきっかけになったと考えられる。

